

問題No.1

業種業態と商業施設に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. アウトレットモール …… 横浜ベイサイドマリーナ
2. カテゴリーキラー …… トイザラス
3. SPA …… ユニクロ
4. ホールセールクラブ …… 全日食チェーン

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」 Ⅲ. さまざまな商業のかたち 3. 主な業態のいま P.83～89参照

答 4

問題No.2

PCとインターネットを利用したE・コマースに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 情報交流が極めて早く、そのコストが格段に安くなる。
2. 世界的に価格が均一化する傾向になる。
3. 取引の方法が多様化し、取引が難しくなる。
4. 市場のすみわけができなくなるから、競争が激化する。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」 Ⅱ. 商業を支えるしくみ 3. 商業を支える技術 P.46参照

答 3

問題No.3

ロジスティクスに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 顧客サービス、需要予測、流通関係のコミュニケーション
2. 在庫管理、荷役、注文処理、商品の製造
3. 商品供給とサービス支援
4. 工場と倉庫の立地選定

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」 Ⅱ. 商業を支えるしくみ 2. 消費とその市場 P.42参照

答 2

問題No.4

ショールームに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シーズンの最新型が展示してある。

2. 商品の使用体験ができる。
3. 商品が格安で買うことができる。
4. 商品情報やアドバイスを得ることができる。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅳ. 商業の現場の実際とその傾向 2. 業態別の実態例 P.131参照

答 3

問題No.5

基本的な業態分類に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 店舗があるかないかで分類する。
2. 販売方法の違いで分類する。
3. 売上規模で分類する。
4. 経営方法の違いで分類する。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅲ. さまざまな商業のかたち 2. 現在の基本的な業態分類 P.63参照

答 3

問題No.6

CVS (コンビニエンスストア) に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 地域のサービス拠点としての展開を始め、さらに付加価値を高めている。
2. 新商品開発、新業態開発と並び各社競っているのが、サービスの強化である。
3. 本部直営での出店や従前のオーナーから引き取り、直営にする店が増えている。
4. 日本中同じ品揃え、陳列、接客で、どこでも誰でも利便性を享受できるシステムは、今後も店舗を増やし成長発展を続ける。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅲ. さまざまな商業のかたち 3. 主な業態のいま P.81、P.114参照

答 4

問題No.7

出店数が増加している薬局や薬店に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高齢社会に向け、薬局の社会的役割が大きくなっており、出店が急増している。
2. 異業種参入、量販店の進出により、競争は激化している。

3. 生き残りのためには、医薬品販売兼業、漢方専門や調剤薬局志向の経営が求められる。
4. 生き残りのためには、健康指導、ナチュラルストア、介護看護部門を強化した経営が求められる。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅲ. さまざまな商業のかたち 3. 主な業態のいま P.103参照

答 1

問題No.8

商店街に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商店街の中には、共同体のSC（ショッピングセンター）として、全体のMD、リーシング、店舗の入れ替えなどをして再生している事例がある。
2. 生活者の視点から見直して、地域の拠点としての機能をする施設を空き店舗や広場を利用しながら作り、商店街の活性化をしている事例がある。
3. 繁盛する店があれば良いので商店街は必要ではなく、全体の経済の発展のためには、大資本に任せることが必要である。
4. 街の活性化のためには、街の人口と商店街は必要であり、結果的に地域住民の利益になる。

答 3

問題No.9

バリアフリーに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 床の段差をなくすだけでなく計量目盛をデジタルにすることで、高齢者の店員も働ける。高齢者の専門的能力活用もあり、コスト削減にも有効である。
2. バリアフリー化により高齢者の顧客を獲得できれば、投資は安くすむ。
3. 高齢者は外出しなくなるのでバリアフリー化は無駄である。
4. 定年退職制度廃止や、就職の年齢差別撤廃というバリアフリーも必要である。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅲ. さまざまな商業のかたち P.64～65参照

答 3

問題No.10

近年、環境問題に取り組むSC（ショッピングセンター）も多い。取り組みに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. レジ袋の有料
2. ゴミの分別化
3. 深夜営業の自粛
4. 商品原産地の明記

【解説】

食品の安全性と環境問題とは違う。

答 4

問題No.11

SC (ショッピングセンター) の各業態における売り場面積規模の広い順に並べた次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. スーパーリージョナル型SC



リージョナル型SC



スペシャリティセンター



スーパーマーケット (SM)

2. ネイバーフード型SC



リージョナル型SC



スーパーマーケット (SM)



スーパーリージョナル型SC

3. スーパーリージョナル型SC



リージョナル型SC



パワーセンター



ネイバーフード型SC

4. スーパーリージョナル型SC



ネイバーフード型SC



ショッピングセンター (SC)



コンビニエンスストア (CVS)

【解説】

SRSCは最大規模である。「商業施設・創造とデザイン」Ⅲ. さまざまな商業のかたち 3. 主な業態のいま P.73～74参照

答 2

問題No.12

SC (ショッピングセンター) が出店したときに地域社会に与える影響に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 交通渋滞が起き、周辺住民の移動に影響が出る。
2. 雇用拡大により、地域経済に良い影響を与える。
3. 広域から買い物客が集まり、必ず地元商店街の売上も増える。
4. ワンストップショッピングで生活に必要なものが買え、消費者は便利になり時間を有効に使えるようになる。

【解説】

近隣の地元商店街は業種によるが競合となり、打撃を受けるのが通常である。

答 3

問題No.13

郊外型百貨店の成立条件における基準に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 後背地にニュータウンのような独占エリアがある立地、または独占色の強い立地
2. 至近距離の同質競合のSC店との売り場面積が、同等か多少上回ること
3. 母都市との時間距離がある程度離れて独立商圈が形成される立地
4. 必ずターミナル機能のある駅前立地であること

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅲ. さまざまな商業のかたち 3. 主な業態のいま P.66～69参照

答 3

問題No.14

業種・業態に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 日本の小売業の数は、人口比で見るとアメリカやヨーロッパの先進国と比較すると最も多い。
2. 品揃えの広さとは、取り扱う商品の種類の多さをいい、深さとは、取り扱う価格帯の幅のことをいう。
3. 無店舗小売業の事例として、通信販売、訪問販売、インターネット販売などが挙げられる。
4. チェーンストアとは、同一店名の店舗を11店舗以上展開する小売店のことをいう。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」 Ⅲ. さまざまな商業のかたち 1. 業種と業態 2. 現在の基本的な業態分類 P.62～63参照

答 2

問題No.15

通信販売の昨今の動向に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 通信販売（通販）市場は物品販売（物販）市場と、チケットや音楽・ゲーム配信などデジタルコンテンツを対象としたサービス・デジタルコンテンツ市場で構成される。
2. インターネット通販やカタログ通販は伸びているが、テレビ通販は伸び悩んでいる。
3. インターネット通販企業の間では、ネットの口コミを利用した宣伝方法に注目が集まっている。
4. 商品の説明が必要な健康食品などは特に通信販売に向いており、全体的な売上も伸びている。

答 2